

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300238		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム設楽の家 1号館		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎字釜淵13番地2		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2376300238-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様は高齢な方や車椅子の方が多いため、住み慣れた地域でのんびりとその人らしい生活ができるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

パートタイマー職の高齢化に伴い正社員が夜勤帯の主力とならざるを得ず、そのバランスの舵取りに苦慮する一方で「申し送りファイル」「1日リーダー」といった工夫や制度、フロアリーダーの育成に尽力して、20代から70代と幅広い世代が協力し合っている事業所です。緑深い山間の中学校跡に建ち、戸外を眺めているだけで気持ちが安らぐ環境の下、60代、70代の職員から「痛いよね、私もだから」、「頼むねえ〜」といった互いを思い合う声が出て、それが自然にケアへ蔓延しているのか、目が合うと微笑んだり会話が弾む利用者ばかりです。理念「笑顔の絶えないホーム」が実現していることが見え、利用者の快活さに嬉しくなります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「ひとりひとりが主人公 思いやり、助け合いを大切に、笑い声の絶えないホームに！」を利用者と一緒に実践している。	事業所理念に基づき各ユニットで目標を設定し、対面キッチンや壁などに貼り出しています。「ひとりひとりが主人公 思いやり・助け合いを大切に、笑い声の絶えないホームに」との理念は、利用者の立居振舞、時間の使い方、リビングでの過ごし方に現れています。	以前には理念実践の振り返りがおこなわれていたとことですので、復活により職員の中に達成感が培われることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	慰問等で地域の方、ボランティアの方、近隣の小学生と交流している。また、施設の前の町道の草刈りや掃き掃除を定期的に行っている。	地域からは古タオルのほか、柿・椎茸・なめこ・鮎などの季節食材が舞い込んだり、地元の小学校は運動会や学芸会に招待くださり、また1年～6年が栽培した新茶を10数名届けてくださる訪問行事は10年余となり、中学生となった子たちと職場体験で再会することもあります。	保育園との交流がさらに進むことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、町・医師会主催の認知症講演会で講師をし、認知症の方の理解等普及活動に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、意見交換し話し合いサービス向上に活かせるよう努めている。職員と利用者も交代で同席している。	民生委員の会長や区長、地域の特別養護老人ホーム施設長、高齢者相談センター長(地域包括支援センター)、役場の町民課と、豊富な知識や経験を持つ顔ぶれが揃い、協議内容も多岐に渡っていて、さながら地域ケア会議のように充実した場と成っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、役場や居宅介護支援事業所を訪問し、情報交換し、協力関係を築いている。	管理者は地域の老人クラブなどからのリクエストに応じて認知症の講座を受け持ってきましたが、本年3月には役場(北設の医師会も協賛)依頼の講師を務めています。保険者となった東三河広域連合の委員や隣接されたドクターヘリの離発着の係も担当して貢献を続けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などを通して、身体拘束について学び、必要以上に鍵をかけないよう配慮し、朝の掃除が終わってから開錠し、午後4時以降、施錠するようにしています。	昨年の法改正に基づき指針を整備し、3ヶ月に1回の身体的拘束適正化検討委員会の開催を漏れなく継続しています。職員間には世代認識の違いや業務遂行の在り方に多少のぎくしゃくはあっても、各ユニットの目標に照らして協力し合う態勢にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について施設研修等で学び、職員で注意をしながら虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、必要に応じて関係者と調整をとり、話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、利用者や家族が不安が無いよう丁寧に説明し、理解・納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や嗜好アンケート等を定期的に実施し、運営に反映させている。	面会では口腔ケアの精度や洗濯物のとり違い等、家族が忌憚なく指摘くださるため、都度是正して職員の留意点が洗い出され、気遣いも向上しています。家族は遠方でも名古屋との現状からは強く求められるものではありませんが、「1ヶ月の様子」も書面で毎月送っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等を聞く機会を設け、稟議書や申報等で代表者へ提案し、サービスの向上に反映させている。	毎月職員会議と各ユニットのカンファレンスを重ねてはいますが積極的な意見がなく、管理者が「こうした方がいいのでは？」と投げかけて、変化が起きるという状況にあります。ただ73歳の職員がチラシでボックスを作ってくれたり等、気持ちのある実践が幾つか見られます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得等の支援をし、向上心ややりがいを育てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町主催の研修会等に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修会等に参加し活動する事で、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、コミュニケーション、行動観察により、要望を汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っている事や要望等、家族の話を良く聴き、遠慮なく話せるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等から要望を良く聴き、今必要なサービスの提供が出来るよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの利用者様の得意とする事・できる事を見つけ、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ面会時や月1回の手紙等で様子を報告している。その都度報告しているので、協力支援して頂ける関係作りが取れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して頂き外出の機会を作っている。病院受診時には、馴染みの人と出会う事もあり、会話を大切にしている。	10周年を機に記念の手作りカレンダーを制作した、今では懐かしさも感じる第1回の家族会をスタートさせて早6年、今でも年1回の家族会のプログラムは職員総出で検討して、利用者や家族との馴染みの関係が途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	企画等で全館の利用者が集まる事もあり、交流する機会を大切にしている。車椅子の方も職員が介助し他号館の方とも関わられるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族等が気軽に相談できるような関係作りを、日頃から大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や表情の中から思いを理解するように努めている。詳細記録で情報を共有し支援につなげている。	末期癌となった人が手作り餃子の日にいつになく勢いよく食べていたので尋ねたところ、「大好きだ」ということを知ったといった例はほかにもあって、行事でも、献立でも新しいアプローチがあることで、利用者の意向把握、アセスメントにつながるものが間々あります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時やケアマネ等に働きかけ把握している。家族や本人との会話の中から、より多くの情報が収集できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細記録で利用者一人ひとりの情報を共有している。また、カンファレンスノートを作成し欠席者も情報が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き、実現に向けた介護計画となるよう話し合い作成している。本人にも同席してもらい確認を取っている。	毎月のカンファレンスが出勤日でない人は意見を予めメモ用紙で伝え、また協議内容はカンファレンスノートに綴って全員共有を図り、チームケアにつなげています。サービス担当者会議は新規家族のみ誘っていますが、2回目以降は利用者本人に出席してもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルや詳細記録を活用し、情報の共有と介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。主治医に往診して頂き、看取り支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方、地元の小学生、地域の方々と交流を楽しんでいる。時には地域の店から五平餅やお弁当を購入し食べている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿った病院での受診を支援している。受診できない方は、月1回、主治医に往診して頂いている。	町内であれば従来のかかりつけ医を続けてもらい、現在4箇所医師の下へ職員が毎月1回の通院介助をおこなっています(1箇所の医院のみ月1回の訪問診療)。医療記録は介護記録とともに「詳細記録」で共有し、専門医については家族対応でお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回出勤する看護師に気になる事や様子を伝え、アドバイスをもらっている。看護記録や連絡ノートで情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は管理者がお見舞いに行き、家族や病院関係者と情報交換し、早期退院につながるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族へ事業所の方針を説明し、同意をして頂いている。家族、主治医、看護師と連携をとりながら、末期癌の看取り支援を行っている。	職員の高齢化、入浴介助や避難経路といった諸事情を踏まえ長期的に検討した結果、「介護度3以上は移設を考えてもらえたら…」と家族にアナウンスするに至っています。ただし、入居後重度化して、本人・家族が「最期まで此処で」の要望にはできる限り応えたいとしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し掲示している。個別にまとめた情報提供表や内服一覧を作成し、救急搬送時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や水害に備え、2ヶ月に1回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署員の協力を得て119番通報訓練も行っている。非常食や飲料水、ランタン等常備している。ホームの前が1級河川、川が氾濫した場合を想定し、自主的に避難訓練も行っている。今年は福祉避難所(愛厚ホーム)まで避難した。	消防署には避難経路や方法など重要事項について指導を受け、町役場も「〇〇だったらこうした方がいい」と具体的に判断基準や段取りを指導くださっています。また運営推進会議に出席の愛厚ホーム施設長にも親身な協力が得られ、連携の礎を築きつつあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや接する態度に気をつけている。本人の訴えは否定せず、その都度状況に応じ対応している。	便失禁を自分でなんとかしようとして混乱してしまう人には、「手すりを握っていてね」と提案する等、「だめ」とか「やめて」といった言葉を使わずに代案の言葉で対応できています。食事中も利用者のじゃまにならないように黒子に徹して飲み込みを確認の様子も視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多く取り、その中で本人の思いや希望を汲み取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体力、性格に合った過ごし方をして頂き、無理のないペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ等には気をつけ、心地良く過ごせるようにしている。月1回、床屋が来所し散髪する事ができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや盛り付け、片づけ等を手伝って頂いている。普段の会話から、好きな食べ物を聞き献立に取り入れている。	ベテラン主婦の腕が存分に発揮された手作りの家庭料理が、ユニットごとに独立したメニューで毎食提供されています。また目前でてんぷらを揚げたり、お鍋をやったり、餃子を包むことから参加する餃子パーティーなど、愉しみや醍醐味のあるアクティブな食事会も盛んです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食形態を把握し、ペーストやお粥、刻み等個々に合った食事を提供している。水分補給は小まめに行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがいのがうまくできない方は、介助したり、口臭予防の為洗口液を使用したりして、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。週3回、入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導や声掛けを行っている。	便秘対策に悩んでいた時期もありましたが、個々のサイクルを掴んで申し送りファイルに記録を残していくことで、夜勤と日勤のバトンもスムーズとなり、現在は解決に至っています。1回目は10時のおやつ、2回目は夕食後のデザートとして手作りヨーグルトも提供しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動を行ったり、ヨーグルトを提供する事で排便を促している。排便チェック表をつけ排便の管理をし、便秘時には医師から処方された下剤や坐薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴する曜日は決まっているが、体調などによっては変更して入浴できるようにしている。浴槽に入る事ができない方は、シャワー浴を行っている。洗髪の拒否が強い方には、ドライシャンプーを使用する事もあり状況に応じて対応している。	1週間に2回を清潔の目安としています。お風呂が好らしく「あれ？今日はないだ？」と職員に聞く利用者もいて、仲の良い人同士で温泉気分になれるほど浴槽は大きく、ゆったりと湯につかることができています。	エアコン設置のない脱衣スペースのため、現在はハロゲンヒーターと扇風機での対応ですが、年々温暖化で熱中症のリスクも高いため、働き方改革も含め、冷風機器が付加されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせ、日中、居室で静養されたり、寝具を定期的に洗濯し安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し、一人ひとりの薬の作用、副作用、用法、用量の理解に努めている。また、服薬介助時は、職員2名で確認し、朝・昼・夕・就寝前の薬の袋に色を変えてラインを引き分かり易くする事で、誤薬のないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをする事で、生活に張り合いが持てるようにしている。余暇活動や職員とコミュニケーションを取ることで、楽しんだり気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、屋外で散歩、外気浴を行っている。また、家族の協力を得て外出されている。	帽子を被って嬉しそうに散歩に順次出かけ、押し車や車いすでも玄関前のベンチで語り合う様子に此処での暮らしの安寧が伝わり、職員も「いつまでも足腰が丈夫であって欲しい」「有用感をもって欲しい」として、ゴミだしや洗濯を干したり、取り込んだりと、戸外へと誘っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かったお金はホームで管理し、必要な時には家族に連絡し使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、職員が家族と連絡をとっている。利用者が電話を使用する事はほとんど無いが、一部、携帯電話を持ち込んでいる方はホームで管理し、本人の希望があった時家族等と話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	汚れや臭いに気をつけ、直ぐに掃除や除菌ができるように努めている。ホームの壁に写真を貼り、居心地よく過ごして頂けるようにしている。	リビングのテーブルや椅子の配置が異なる点からはユニットごとの取組みがあることが見えません。経年劣化による壁紙の傷みはあるものの、職員の整理整頓力により物品が収まる場所にきちんと置かれ、余分なものがなく整然としています。	3号館(ユニット名)は近くに浄化槽があるためか、時折臭うので他のユニットより換気の頻度を上げるなど、対策を講じることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋があり、自由に過ごせるようにしている。共用のホールには、ソファや椅子を置き、利用者同士で談話・談笑したりテレビを見たり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家族と相談し使い慣れた物を持ち込んだり飾ったりして、居心地良く生活できるようにしている。	カーテン付の押入れを便利に活用しつつも、大好きな歌手のポスターやひ孫の愛らしい写真、小さな人形や置物、造花などでその人らしさが感じられる居室に仕上がっていて、中には大きな整理ダンスが持ち込まれた部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLに合わせ、ベットはギャッジベットにしたり手すりをつけたりしている。また、転落の恐れのある方は、床に布団を敷いたり、夜間センサーを使用するなど安全確保に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300238		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム設楽の家 2号館		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎字釜淵13番地2		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2376300238-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食後は、歯磨き、入れ歯の洗浄をしっかりと行い誤嚥防止に努めている。自分でできない利用者は、職員が口腔ウエットティッシュを使い、お口の中をきれいにし、清潔を保つようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

パートタイマー職の高齢化に伴い正社員が夜勤帯の主力とならざるを得ず、そのバランスの舵取りに苦慮する一方で「申し送りファイル」「1日リーダー」といった工夫や制度、フロアリーダーの育成に尽力して、20代から70代と幅広い世代が協力し合っている事業所です。緑深い山間の中学校跡に建ち、戸外を眺めているだけで気持ちが安らぐ環境の下、60代、70代の職員から「痛いよね、私もだから」、「頼むねえ〜」といった互いを思い合う声が出て、それが自然にケアへ蔓延しているのか、目が合うと微笑んだり会話が弾む利用者ばかりです。理念「笑顔の絶えないホーム」が実現していることが見え、利用者の快活さに嬉しくなります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の「ひとりひとりが主人公、思いやり、助け合いを大切に、笑い声の絶えないホームに！」が実践できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌や踊りのボランティアの方の慰問を受けたり、近隣の小学生と交流している。また、ホーム近くの町道の草刈りや清掃を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、町・医師会主催の認知症講演会で講師をし、認知症の方の理解等普及活動に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、利用者・職員も1名ずつ参加している。意見交流し、会議で話し合った事をホームのサービス向上に生かせるよう努めている。また、議事録を玄関に掲示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、市町村担当と連絡を取り、情報交換を行って協力関係を築いている。また、災害時の避難について地域の協力が得られるよう話し合いをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修などで身体拘束について学び、理解し、防止に努めている。玄関の施錠については、職員が3名以上いる時はしないようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで虐待について学び、理解し、職員間で注意し合い、虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は必要に応じて関係者と話し合い、制度が活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、家族や利用者の不安や疑問点について、丁寧に説明し、理解・協力を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や嗜好アンケート等を定期的に行い、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者の資格取得の支援をしたり、各自がやりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町主催の研修会等に、多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修会等に参加する事で、同業者と交流を計り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごと、不安など解消するために何ができるか、本人の話をよく聴いた上でサービスの提案をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の意向を尊重し、面談や聴き取りに十分に時間をかけ、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを重視し、潜在的なニーズも見落とさないように注意している。本当に必要な支援は何か、当ホームで十分なサービスを提供できるかよく検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を旨とし、過剰介護にならないようにしている。利用者と職員が馴染みの関係になり、家庭的な環境で過ごせるようなコミュニケーションづくりを重視している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護施設でなければ難しい支援もあれば、家庭にしかできない支援もあると考え、協力を依頼し、よりよい支援ができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・外泊の機会をできるだけサポートし、これまでの人間関係、地域とのつながりが保たれるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士の関係をうまく取り持ち、誰かが孤立する事なく、思いやりを持ち関わり合う事ができる環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の利用者の生活も考えて、家族や後任の担当者に情報提供やアドバイスをしている。契約終了後も必要があれば相談に応じ、支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の影響もあり、言葉でうまく思いを伝えられない利用者が多い。職員は本人の権利を擁護し、本人の希望・意向の代弁者としての役割も担えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴・環境・サービス利用についても、事前に可能な限り調べ介護計画作成時の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターン、心身状態、残存機能を把握し、適切な支援ができるよう、観察記録を怠らないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を事前に確認し、よく検討し、介護計画を作成している。必要な関係者からの意見も取り入れ、介護計画を現状に合わせ更新している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護チーム間での話し合い、情報の共有を欠かさないようにし、普段の関わりの中での気づきも大事にしている。利用者の日々の状態変化に気をつけ、観察・記録するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の現状ニーズに合わせ、サービス利用時間を融通したり、別形態のサービス利用についても相談に応じたりしている。利用者本位の支援を心がけ柔軟に対応できるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、近隣の小学生、民生委員の協力を得て交流し、社会とのつながりを保ち、安心して暮らす事ができるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿った病院での受診を支援している。遠方の場合、了解を得て、家族の方とかかりつけ医を受診されている。また、受診に行けない利用者は、月に1回、主治医に往診に来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回は看護師の訪問があり、利用者の様子を伝えアドバイスを頂いている。看護記録や介護詳細で情報を共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に職員がお見舞いに行き、家族や病院関係者と情報交換し早期退院につながるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族へ事業所の方針を説明し、重度化・看取りについて理解を頂いている。家族・主治医・看護師と連携をとりながら情報共有し、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し掲示している。利用者の情報を個別にまとめた情報提供表を作成し救急搬送に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や水害に備え、2ヶ月に1回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署員の協力を得て119番通報訓練も行っている。非常食や飲料水、ランタン等常備している。ホームの前が1級河川、川が氾濫した場合を想定し、自主的に避難訓練も行っている。今年は福祉避難所(愛厚ホーム)まで避難した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、思いを傾聴している。訴えは否定せず、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉使いや態度に気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションをとる事により、本人の思いや希望を知り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体力、性格の合った過ごし方をしして頂き、無理のないペースで過ごして頂けるよう支援している。また、体調によっては、居室で休んで頂く時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れ等には気をつけ、心地良く過ごせるようにしている。月1回、床屋が来所し散髪する事ができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや盛り付け、片づけ等を手伝って頂いている。普段の会話から、好きな食べ物を聞き献立に取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関のアドバイスを受け、個人に合った食事形態を考え提供している。自分で摂取する事が困難な利用者には、介助で食べていただいている。脱水にならないように、夜間も水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨き、入れ歯の洗浄を行い、できない利用者には、職員が口の中を拭いて口腔ケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らって排泄の声かけ等を行い、自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に体操等を行い、適度な運動や1日2回ヨーグルトを提供するなどし、便秘予防に取り組んでいる。また、排便チェック表をつけ排便の管理を行い、頑固な便秘は主治医と相談し薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、各自、入浴する曜日を決めているが、体調やその日の気分、入浴するタイミングに配慮しながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調管理を行い、寝具を清潔にし季節に合った寝具等使用して頂くよう支援している。また、不安や心配事などに耳を傾け、安心できるよう寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の一覧表を作成し、誰が見ても分かるようにしている。定期的な受診を行い、体調に合った服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や利用者日々の行動に目を向け「できる力」を生かした役割や楽しみ事を提供している。利用者の気持ちに寄り添った声掛けをし、コミュニケーションを取る事で孤立させない支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候をみながら、ホームの周りを散歩したりしている。また、ご家族の協力を得て、外出の支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かったお金は、本人が所持する事でトラブルも起こりやすい為、ホームで管理し、必要に応じ家族に連絡をし使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を使用する事はほとんど無いが、一部、携帯電話を持ち込んでいる方がいる。その場合、ホームで管理し、本人の希望があった時に、家族、外部の方と話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節にあった工作を作って飾り楽しんでいる。トイレ・浴室等は、場所がわかりやすくなるよう工夫している。また不快感無く使用できるようにトイレ掃除は小まめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に部屋があり、必要に応じてテレビ等持ち込み、プライベートの空間でのんびり過ごす事ができる。フロアにはソファや掘りごたつ、外にはベンチがあり、思い思いの場所でくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用していた品を使用されたりして、落ち着いて過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLを把握し、ベットに手摺りをつけたり、人感センサーの位置に配慮したりと安全確保に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376300238		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム設楽の家 3号館		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎字釜淵13番地2		
自己評価作成日	令和1年9月30日	評価結果市町村受理日	令和元年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2376300238-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和元年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活、お手伝い、レクリエーションを通して、やりがいや生き甲斐を見つけられるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

パートタイマー職の高齢化に伴い正社員が夜勤帯の主力とならざるを得ず、そのバランスの舵取りに苦慮する一方で「申し送りファイル」「1日リーダー」といった工夫や制度、フロアリーダーの育成に尽力して、20代から70代と幅広い世代が協力し合っている事業所です。緑深い山間の中学校跡に建ち、戸外を眺めているだけで気持ちが安らぐ環境の下、60代、70代の職員から「痛いよね、私もだから」、「頼むねえ〜」といった互いを思い合う声が出て、それが自然にケアへ蔓延しているのか、目が合うと微笑んだり会話が弾む利用者ばかりです。理念「笑顔の絶えないホーム」が実現していることが見え、利用者の快活さに嬉しくなります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが主人公、思いやり助け合いを大切に、笑い声の絶えないホームに！」を事業所理念として掲げ、利用者と生活しながら実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問等で地域の方やボランティア、近隣の小学生との交流会を図っている。施設の前の道の清掃を月2回行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、町・医師会主催の認知症講演会で講師をし、認知症の方の理解等普及活動に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、運営状況等の報告をし、委員の方の意見を運営に反映している。議事録を玄関に掲示している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、役場・居宅介護支援事業所と連絡・訪問をし、協力関係を築いている。運営推進会議にも委員として参加してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等を通して身体拘束について学び防止に努めている。職員の見守り体制が整っている時は、玄関の施錠はしていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、職員間でも注意しあい、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は必要となれば、関連機関と連絡調整をとり支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、利用者や家族と契約前に面談を行い、丁寧に説明をし、理解・納得をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や嗜好アンケート等をして、利用者・家族から得た意見を運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案・意見を聞く機会を設けたり、月に1回職員会議を開き意見交換し、運営改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者の資格取得の支援をしたり、資格手当をつける事で、向上心ややりがいが持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、町主催の研修に、多くの職員が参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修会等に参加する事で、同業者との交流する機会とし、サービスの質の向上ができるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを良く聴き、コミュニケーションを多く取り、安心を確保する関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を良く聴き、安心した生活が送れるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人や家族等からの実情や要望を基に、必要としているサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に日常を過ごす中で、その人のできる事・好きな事を見つけ共に行動できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の家族様レターや面会時や電話等で、現状を家族に伝えコミュニケーションを取り、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に面会に来ていただいたり、利用者同士又は職員が聞き出し思い出話をしている。家族の協力をいただき外拍していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者一人ひとりを理解し、声をかけるなど間に入り、利用者同士が関わり合い支え合えるよう状況に応じている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じ、家族が相談できるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向等に添わない一方的なサービスにならないように努めている。意思疎通が困難な利用者は、時間をかけて丁寧に意向を汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族・本人の話をよく聞き、多くの情報収集ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・詳細記録などで情報を共有し、疑問などはその都度話し合い解決するように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでは、本人・家族の意向を踏まえ、職員が意見を出し合い見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りファイルや介護記録・詳細記録に日々の様子やケアの実践等を記入し、情報の共有を図っている。介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に合わせ、家族が対応困難な時等柔軟な対応をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の小学生や歌や踊りのボランティアの方達の慰問等で、地域住民の方達と交流をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が困難な方は、職員が主治医に相談に行ったり、月1回、往診に来て頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回看護師が出勤するので、状況を伝えアドバイスももらい受診・往診へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時面会に行き情報交換をしている。主治医とご家族様と連携を取り合い、早期退院へつなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、事業所の方針を伝え同意を頂いている。また、家族や主治医と相談し状況に応じた支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送を備えた、利用者一人ひとりの情報共有をまとめ作成してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や水害に備え、2ヶ月に1回、昼間・夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署員の協力を得て119番通報訓練も行っている。非常食や飲料水、ランタン等常備している。ホームの前が1級河川、川が氾濫した場合を想定し、自主的に避難訓練も行っている。今年は福祉避難所(愛厚ホーム)まで避難した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや態度には、十分気をつけている。 本人の訴えがある時は、否定しないで受容している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、利用者本人の思いや希望を聞き取り、自己決定をできるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や体力を把握し、無理強いせずに利用者のペースに合わせて、一日を過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回、床屋が来所し散髪して下さいます。服に汚れがついていないか身だしなみには十分気をつけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食時の下ごしらえや片づけのお手伝いをして頂いています。好物な物を聞き献立に入れ活用しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を介護記録に記入しています。体操・入浴後・夜間帯等小まめに水分補給をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。月・水・金曜日の週3回、入れ歯洗浄剤を使用し清潔に保っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使用している人や自分からトイレに行かれない人は、排泄チェック表を付け時間を決めてトイレ誘導をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を排泄チェック表に記入している。排便が4日なければ便秘薬を使用する。又、水分も多く摂るよう声を掛けている。10時のおやつ、夕食時にはヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴できるようにしている。入浴が好きな方は、曜日を決め入浴回数を増やしている。浴槽に入れない方は、シャワー浴をしている。体調等に気をつけ、入浴日を変更するなど考慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎週、シーツ類の洗濯を行い、清潔保持に努め気持ちよく眠れるようにしている。車イスの利用者には、1日2回の休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の一覧表を作成し、職員全員が把握できるようにしている。服薬介助時や薬のセット時には、2人で確認し、誤薬・飲み忘れ・薬のセットミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合ったお手伝いをして頂いている。また、会話や行動から思いを汲み取り、その人にあった楽しみや気分転換を支援している。おやつ時には、好きな飲み物(コーヒー・ココア)を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴を行っている。家族に協力して頂き、外出・外泊されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預かったお金はホームで管理している。必要に応じ、家族に連絡し、使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ、職員が間に入り連絡を取っている。利用者へ電話があった場合は、本人と話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には季節にあった飾りを貼っている。汚れや臭いに気をつけ、すぐに掃除できるようにしている。また、消臭スプレーを使用している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに居室があり、のんびり過ごせるようにしている。仲の良い利用者の居室に遊びに行き、楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し使い慣れた物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせるようにしている。作成した折り紙や塗り絵など飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLに合わせ、ベットに手すりをつけたり、ギャッジベットを使用している。転落のおそれのある方は、床に布団を敷き安全確保に努めている。夜間センサーの位置にも気をつけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容